

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年09月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800349
法人名	株式会社 ひょうま
事業所名	グループホーム になたぼっこ・向横田
所在地	島根県益田市向横田町イ805-1 (電話) 0856-25-1722

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地STICビル3階		
訪問調査日	平成19年8月30日(木)	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	6月	17日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	10 人	常勤	5人, 非常勤	5人, 常勤換算	6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての,	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	380 円	おやつ	0 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	79 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本医院、斉藤歯科医院、村野医院、松ヶ丘病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本人や家族の思いを第一に考え、個別なケアを実践している、開設6年目のホームである。法人のバックアップ体制が確立されていて、職員研修や地域に対して認知症に対する啓蒙活動が積極的に行われている。「お世話したい」という職員の意識を変えることで、利用者が食事づくりなどとおして生き生きと役割をもって生活できている。管理者と職員は常に話し合い、課題を共有しながら、よりよいホームづくりに努力している

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の後に改善計画を作成し、利用者の権利について明文化したり、浴室脱衣場をプライバシーの面から改修をしたりしている。ケアマネジメントや医療健康支援、内部の運営体制についても再検討と今後の課題などが話し合われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で、数項目ずつ毎日検討を重ね、日々の認知症ケアとしての気づきや取り組みを自己評価としてまとめ、毎日のミーティングで、課題項目について話し合うなどケアの改善に役立っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>関係者が二ヶ月毎に集い、評価結果の報告や利用者の状況等について話し合い、活発に意見交換が行われている。出席者の意見で、初期探索時用の自転車が用意されたり、防災に対する取り組みが検討されるなど、継続的な内容となっている</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人全体で家族アンケートを実施したり、ケアプラン作成時や訪問時には家族の意見の引き出しを積極的に行っている。意見は職員会議等で話し合い運営に反映させている</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入り、職員、利用者ともに地域の行事や活動に参加し、地域の一員としての役割を積極的に果たしている。立地上の困難さから日常的に地域住民が訪問することは少ないが、散歩や買い物など、ホーム側から地域に出かけることで、差し入れなどの住民との交流がふえている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして今までの生活に近い環境作り、なじみの関りを大切にするということを念頭に置いた理念が作られている。	○	「地域住民との交流の下で」の活動の意義を地域密着型サービス事業所理念としてどう位置づけるか十分な論議をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月一回、職員一人ひとりが行った自己評価をもとに、理念に沿ったケアをしているか全職員で話し合いを行い、日々の実践に活かしている		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として、敬老会や 宮掃除などの地域行事に積極的に参加している。また、ホームだよりの地域版の回覧や、差し入れや散歩、買い物などで、住民とのふれあいを行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、外部評価についても改善計画を立て、全職員で課題を共有しながら、改善の取り組みを行っている		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、利用者の状況や運営状況、アンケート結果などを報告し、活発な意見交換を行っている。出された意見は、ホームの設備の改修や利用者の対応の改善に活かされている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者のケアに関することなどについて随時、電話や管理者が市へ出向くなどで市の担当者と相談できている		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りにあわせて、利用料や金銭に関する報告を家族へ送っている。健康面については変化時に随時電話で連絡している		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や、無記名のアンケート送付などで家族からの意見を引き出すようにしており、出された意見や要望を職員会議などで検討し、運営の改善に活かすようにしている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の際には一ヶ月間は新人に担当者がバックアップする体制をとっており、利用者がとまどわないよう配慮している		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修システムが確立されていて、全職員が計画的に参加している。また、法人外の研修の機会も多く、力量に合わせて全職員が参加し、きちんと伝達されている		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は毎月、近隣のグループホームの集いに参加して交流を行っている。職員は、同じ法人内のグループホームとの相互研修は行っているが、近隣のグループホームとの交流はない	○	職員レベルでの交流研修会の実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得して入居してもらうために、ホームに通って馴染んでもらったり、体験入居を実施している。入居後も自宅訪問や頻繁な面会など、家族の協力を得ながら、細やかな配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、ことわざや昔の歌、料理などを教わったり、入居者主体の生活の支援をすることにより、共に支え合う関係づくりが行われている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、行動などから思いや意向をくみとり、対応している。気づいたことは綿密に記録し、毎日のミーティングで話し合い、職員間で共有している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の出席しやすい日程調整を行うことで、家族も同席して介護計画を作成している。利用者の希望を尊重した具体的な内容となっている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が、計画どおりに行われているかを毎日チェックできるようなシステムがあり、状況の変化があれば随時介護計画を見直し、関係者で検討、変更を行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の配置があり、早期退院に向けた支援を行っている。利用者の体調不良の時には家族が泊まったり、自宅に仏壇を拝みに行くなど、個別の支援を行っている		
の					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともとのかかりつけ医に継続受診できるよう対応している。看護師による病状観察により、急変時などにも適切な医療が受けられる		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対するホームとしての明確な方針があり、家族、主治医、ホームが、話し合っって対応している。職員も勉強会を行い、方針を共有している。現在、看取りへの対応を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄のケアが必要な人には、他の利用者にそれと分からないように声をかけたり、視線を同じにして脱衣を促すなど、利用者の誇りを尊重した対応を行っている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を活かした役割の実現や、外出支援、部屋で静かに過ごすなど、その人らしい生活が見守られている。業務優先にならないように、職員同士声をかけあい、入居者のペースを尊重している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれに、食材のゆで卵の殻をむいたり、野菜をきざんだり、配膳するなど、進んで役割を果たしている。食事中も和やかな雰囲気があり、ゆっくり食している		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的な浴室で、ひとりひとりの希望を配慮した入浴支援が行われているが一日おきの利用者が多い。	○	入浴についての意思表示が困難な利用者もいるので、入浴の効能を考慮し、毎日入浴できるような支援を期待したい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくりや掃除、洗濯物干し、調理、買い物など、利用者は役割をもっていきいきと生活している。温泉や喫茶店に行くなど、個別な支援をとおして、利用者の生活を楽しいものにしていく		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段の散歩や買い物の他に、自宅へ行ったり、外食したりなど日常的に外出の支援が行われている		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを原則とし、見守りや同行などを行っているが、前に県道があり、利用者の状態や職員の事情でやむをえず鍵を掛けることもある	○	立地条件の困難さもあるが、さらに鍵をかけないケアの検討が望まれる
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域と連携し定期的に避難訓練を実施し、地域との協力体制がとられている。災害時の備蓄としての水や食料品は準備されていない。	○	地震等の地域全般にわたる自然災害時にも対応できるように、備蓄の検討をしていただきたい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に食事摂取量や水分量を把握しており、バランスの良い食事が工夫されている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや、廊下の棚などに季節の花が生けられ、自然の光やベランダからの風が、居心地良い空間をつくっている。ホームの随所に長イスやソファーが置かれ、利用者が思い思いに自由に過ごしている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者宅を訪問し、使い慣れた家具を持ち込むなどの工夫がされていて、利用者の希望や状態に合わせた環境づくりが行われているが、家庭的雰囲気の乏しい居室もある	○	さらに、利用者の気持ちが癒されるような環境づくりの工夫が望まれる